

東京農業大学稲花小学校

学校だより【9月17日】第22号



見守りに感謝

新学期になり、毎朝、元気に子どもたちが登校してきます。遅刻は厳禁なのですが、大学キャンパスの植え込みやそこにいる虫に気を取られて時間を忘れてしまう子どもがいます。友達とおしゃべりをしていたら、遅れてしまったという子どももいます。虫や、植物や、珍しい形の石を探しながら楽しく登校させたいという気持ちと、時間は守ってもらわなくてはという気持ちが交差します。

正門では校長、警備員が出迎えます。玄関口では教頭が声をかけています。となりの一高一中の正門では、教頭先生や生徒会の生徒さんたちがおはようの声かけをしています。登下校の時刻に合わせて、世田谷署や交番のおまわりさんが正門で、子どもたちの安全を見守ってくれる日もあります。きっと、駅では駅員さんが、バスでは運転手さんが、商店街では商店街の皆様も、通学する子どもたちに気を配ってくださっているに違いありません。本当に有難いことです。

子どもたちには、見守ってくれている方々に対して自然に、しかし、元気よく、「おはようございます」や「ありがとうございます」が言えるように指導してまいります。

台風15号襲来

9月9日(月)、台風15号が関東地方に上陸し大きな被害や混乱をもたらしました。農大稲花小学校では特段の処置はとりませんでした。公共交通の運行や混雑の状況、自宅周辺や世田谷区の気象警報などを考慮の上、保護者の判断での欠席あるいは登校となりました。当然ながら安全第一ですので、欠席した子どもたちも多く、すっかり晴れてから少し遅れた近所の自宅から歩いてきた子どもたち、あるいは保護者とともに登校した子どもたちなどもあり様々でした。このような日は遅刻や欠席を心配して判断を誤らないよう、遅刻や欠席はカウントしないことのお知らせしました。また、欠席をしても勉強の進度に違いが生じないように、小学校では通常通りの授業は行いませんでした。

台風や大雪、あるいは交通の混乱などはこれからもありえます。前日にわかることも、当日にならないとわからないこともあるでしょう。場合によっては、通学途中に、あるいは帰宅途中に何かがおきるかもしれません。大切な子どもたちの安全に関しては、これが

らも保護者の皆さまの適切な判断とご協力をお願いするとともに、ひとたび学校の門をくぐったら、子どもたちの安全を確実に守るのが、小学校の務めと考えています。

夏も終わり

まだまだ暑さは続きますが、9月11日(水)は、本年度最後の水泳授業でした。本校の屋上にある真新しいプールで、1年生72名は体育担当教諭の指導の下、また、担任ほかの教諭、養護、さらに教頭の見守りのなか、本年度は合計5回の水泳授業を行いました。最後の水泳授業では、東京農業大学大学院修了のスイマー若平聡さんがゲスト参加。クロール、バタフライ、平泳ぎ、そして背泳ぎと4つの泳法のデモンストレーションをしていただきました。子どもたちは、その速さ、また、クイックターンの素早さ、潜水距離の長さなどに、びっくりしたり喜んだりでした。

「クイックターンはどうやるんですか?」という質問に対する若平さんの説明を聞いた別の子どもから、「そういう風にぐるっと回ると、裏返しになってしまいませんか」と鋭い質問が。水中で体をひねっているんだ!という気づきのあった瞬間でもありました。来年はもっともっと泳げるようになるといいですね。

ノコギリクワガタ

北海道オホーツクキャンパスから8月初めにいただいたクワガタムシ。暑い東京の夏休みは、東京農大で昆虫の研究をしている学生たちが世話をしてくれました。生き延びた数匹は、8月末から農大稲花小学校に。落ち葉の下でごそごそしたり、昆虫ゼリーを食べたりする様子に、子どもたちは興味津々です。

中にはカブトムシをたくさん飼っている子どもや虫好きな子どももいて、「先生、土が少なすぎます。これでは卵が産めないよ。」などと教えてくれます。「死んだら標本作らせて」と言ってくる子どももいます。ノコギリクワガタも、農大稲花小学校で大いにお役に立ってくれているようです。

